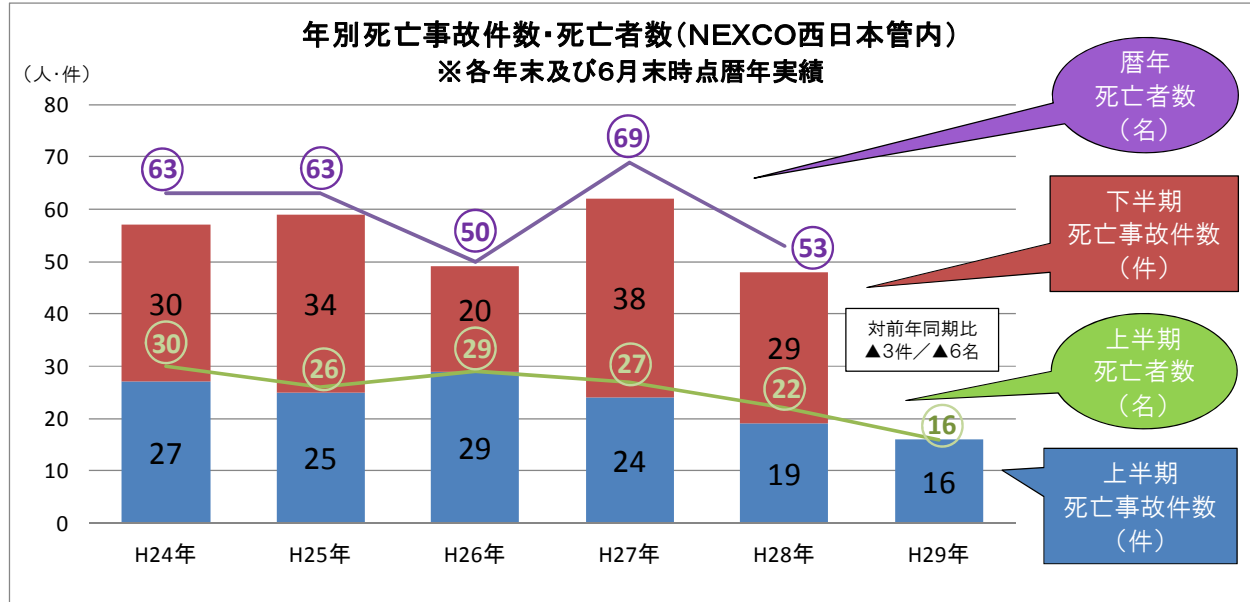


〔資料中の値は、特に記載のあるものを除き、全てNEXCO西日本調べ（平成 29 年 1 月から 6 月までの速報値）〕

1. 交通死亡事故発生状況について

《① 死亡事故件数・死亡者数(H24～29 年上半期)》

平成 29 年上半期の交通死亡事故発生状況は、過去 5 年間の上半期と比較して、交通死亡事故件数・死亡者数ともに最も低い水準となっております。

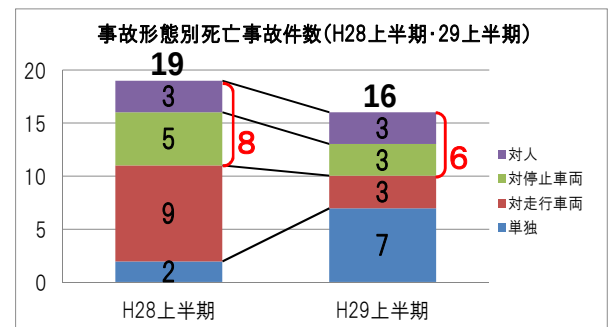


《② 死亡事故の特徴と傾向》

死亡事故の発生状況を前年と比較すると、事故形態別では、全体件数は減少したものの、「まさか！(※)の事故」が依然として発生(H28:8 件→H29:6 件)しており、看過できない状況にあります。

また、逆走に起因する死亡事故も 1 件発生しております。

※「まさか！の事故」＝直前の事故や故障等により高速道路上に立っている人や、停止している車両等に衝突する事故(対人事故+対停止車両事故)



《③ 平成 29 年上半期に発生した死亡事故の概要(例)》

【逆走:3 月 1 日(中国道)】

軽貨物が逆走し正面衝突

(←順行方向)

軽貨物が上り線を逆走中、追越車線を走行中の大型貨物に正面衝突したものの。軽貨物運転手の男性 1 名が死亡。

【対停止車両:6 月 6 日(山陽道)】

直前に発生していた事故により停止中の大型貨物Bに後続の大型貨物Aが追突

大型貨物 A が追越車線を進行中、直前に発生していた事故により追越車線上に停止中の大型貨物 B に衝突したものの。大型貨物 A 運転手の男性 1 名が死亡。

2. 逆走事故ゼロへ向けた取り組み等

NEXCO 西日本では、事故多発箇所を中心に平成 28 年度において 48 箇所です事故防止対策を実施しています。
なお、これまでの対策実施箇所においては、約 3 割の死傷事故件数の削減が図られています。

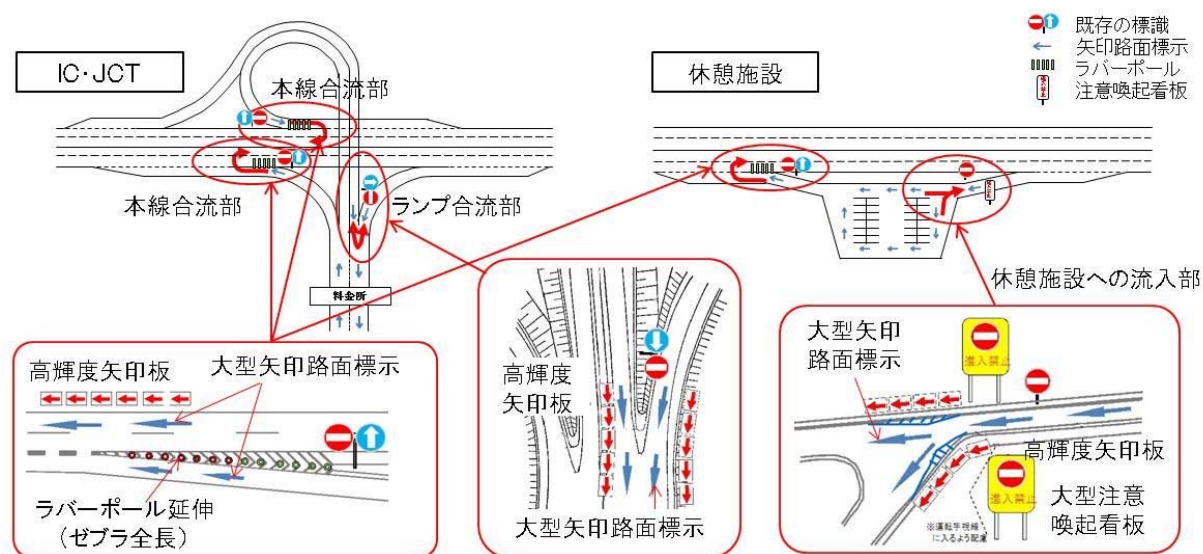
《①逆走対策》

■ ハード対策

現在、高速道路関係 6 会社では、国土交通省をはじめ関係機関と連携して、全ての IC・JCT 部等での物理的・視覚的対策を進めており、NEXCO 西日本においては逆走事故ゼロを早期に実現すべく平成 29 年度中の完了へ向けて鋭意対策を進めているところです。

更に、対策のより一層の推進を図るため、民間企業等から提案のあった逆走対策技術等の実道での検証を進めてまいます。

《実施中の逆走対策の例(インターチェンジ、ジャンクション、休憩施設の分合流部)》



■ 逆走防止に向けた啓発・広報の強化

従前よりホームページや各種チラシ・リーフレット、キャンペーン等により、逆走防止に向けた啓発に取り組んでいるところですが、平成 29 年上半期においても死亡事故が発生するなど、未だ逆走に起因する重大事故が後を絶ちません。

このような状況を踏まえ、NEXCO 西日本では、大阪府警察と内容を調整の上、逆走に至らないための高速道路の正しい利用方法や逆走行為の危険性を啓発する教材を作成しました。

広くご活用いただきたく、大阪府をはじめとする西日本エリアの各警察関係機関へ配布しました。また、ご自宅での視聴や、地域コミュニティでの交通安全講習等においてもご活用いただけるように、本教材は NEXCO 西日本のホームページにフリーダウンロード形式にて掲載しております。

また、NEXCO 東日本・中日本と連携した逆走防止統一啓発として、これから迎える夏季交通混雑期においても、今ゴールデンウィークに引き続きテレビ・ラジオ・新聞等のマスメディアを通じた広報を実施いたします。

《教材ダウンロード画面(当社ホームページ)》

《逆走防止統一啓発ロゴマーク及びキャッチフレーズ》



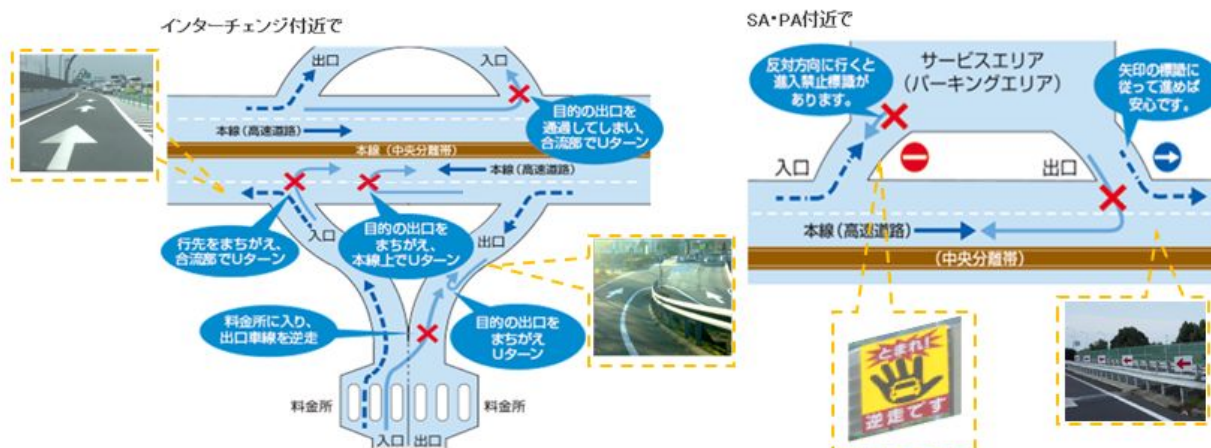
■ お客さまへのお願い

高速道路における逆走行為は、ひとたび事故が発生すると重大事故に繋がるばかりか、何の落ち度もなく運転されている他のお客さまにも甚大な被害を与える可能性がある非常に危険な行為です。絶対におやめください。

【高速道路は一方通行です】

- ☑ 逆走しないために、案内標識や路面標示などで進行方向を十分確認し走行してください。
- ☑ もし目的のICを行き過ぎてしまっても、本線上や料金所付近では絶対にUターンやバックをせず、そのまま走行し次のICで降りて料金所係員にお申し出ください。

逆走はこんな所で起こりやすい！



【逆走車を発見したら】

- ☑ 逆走車を見かけたら、料金所係員への通報のほか、最寄りのSA・PAの非常電話や、同乗者の方から110番・道路緊急ダイヤル(＃9910)などで通報をお願いします。通報をいただくと、逆走車の発生を情報板やハイウェイラジオで直ちにお知らせいたします。
- ☑ 逆走車の情報を見たり聞いたりしたら、速度を落とし、十分な車間距離をとって通行帯の一番左側を走行してください。
- ☑ 逆走車を前方に発見したら、路肩などの安全な場所に停止して衝突を避けてください。

《②交通安全啓発活動》

NEXCO 西日本グループでは、SA・PA、料金所及び地域の交通安全イベント等において、年間200回を超える「交通安全キャンペーン」を開催しているほか、運輸系企業、自動車学校及び地域コミュニティ等に出向き、年80回程度「出張講習会」を実施するなど、積極的に各種交通安全啓発活動に取り組んでいます。

また、「愛する人・愛してくれる人を想う気持ち」を原動力に、想いやりの心の輪を広げることで、社会全体で交通事故ゼロを目指す「DRIVE&LOVE プロジェクト」を推進しており、認知拡大に向けたPR活動のほか、賛同企業・団体の皆さまとの交流会や有識者等による講演会を開催するなど、活動に取り組んでいます。

(「DRIVE&LOVE」のさらなる推進については、別添を参照。)



《交通安全キャンペーン》



《高齢者向け出張講習会》



《DRIVE&LOVE 賛同企業・団体向け講演会(動体視力トレーニング)》

3. 安全運転のお願い

《① 漫然運転やわき見運転をしない！》

高速道路における死亡事故の大半が、漫然運転やわき見運転によるものと考えられています。「考えごとやぼんやりしていた」「外の景色や車内の落下物に気をとられていた」などにより、前方への注意が欠けると大変危険であり、時速100kmの速度では、車は1秒間に約28mも進むため、一瞬の気の緩みで重大な事故につながる恐れがあります。

ぜひ、前掲したDRIVE&LOVEプロジェクトの「笑顔の運転」を実践していただき、前方や周辺状況に注意しながら、十分な車間距離をとって運転に集中して下さい。特に深夜・早朝の時間帯や雨天時には、速度を控えるなど安全運転をお願いします。

《② 車外放出事故防止のために、全席・全員シートベルト着用を！》

高速走行で衝突した場合、シートベルトを着用していないと体が車内で振り回され、ガラス部を突き破って体が車外へ放出されることがあり、路面への落下時の衝撃や後続車にはねられることにより、死亡に至るケースがあります。

シートベルトがあなたを守ります。運転席・助手席だけでなく、後部座席も全員、シートベルトを装着しましょう。

なお、6歳未満のお子様を同乗させる場合、チャイルドシートの使用が義務付けられています。

高速道路におけるシートベルト非着用者の致死率は、着用者の **約9倍 に跳ね上がります！**

(平成26年 警察庁資料による)

《③ 事故・故障が発生したら・・・》

高速道路は、時速100km近い車が行き交っている空間です。一般道と同じ感覚で行動すると、思わぬ事故に巻き込まれる可能性があります。交通事故・車両故障などの緊急事態が発生した場合の避難等措置の適否が生死を分けることもありますので、今一度、以下の注意事項についてご確認ください。

・後続車に合図

後続車の運転手があなたの車に気づいているとは限りません。

ハザードランプ・発炎筒・停止表示器材等で後続車に対する注意喚起を行ってください。また、万が一の場合に備えて、発炎筒・停止表示器材は必ず車載しておきましょう。

・歩き回らない

事故・故障車付近の本線車道や路側帯を歩き回ると大変危険です。

高速道路は一般道とは違います！同じ感覚での行動は絶対におやめください。

・安全な場所に避難

車内や車の前後での待機は大変危険です。運転手も同乗者も全員、すみやかにガードレールの外など安全な場所へ避難してください。

・通報

110番、道路緊急ダイヤル(＃9910)、非常電話などで事故や故障状況を通報してください。



万が一、事故・故障に遭われた際は、後続車に合図 のうえ、車内や車のまわりに残らず、速やかに 安全な場所へ避難 していただき、110番・道路緊急ダイヤル(＃9910)などで 通報 をお願いします。